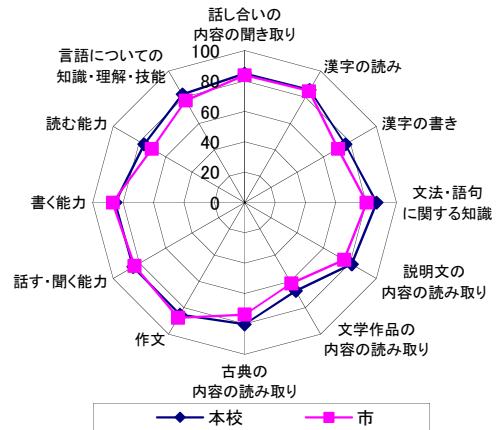


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	84.8	83.7	
	漢字の読み	85.5	84.7	
	漢字の書き	76.5	70.9	
	文法・語句に関する知識	86.8	80.3	
	説明文の内容の読み取り	81.3	75.5	
	文学作品の内容の読み取り	67.2	61.6	
	古典の内容の読み取り	80.3	73.9	
	作文	85.2	87.7	
	観点別	話す・聞く能力	84.8	83.7
		書く能力	85.2	86.9
読む能力		76.4	70.6	
言語についての知識・理解・技能		82.1	77.6	



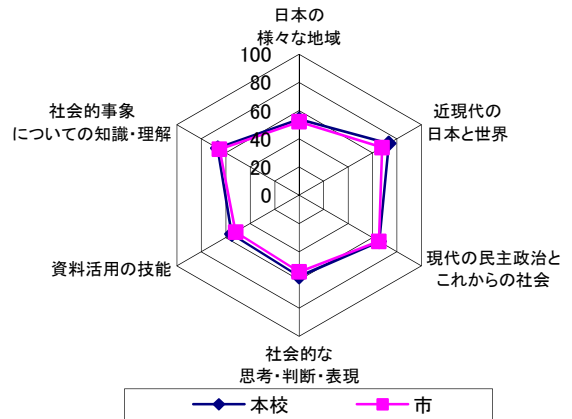
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	宇都宮市の平均を少し上まわる、+1、1%である。この内容では、昨年は+6、1%であったが、これは昨年の市の平均正答率が67、2%と低く、問題が難しかったため差が生じただけであり、本校の今年の84、8%の正答率は、十分な達成状況といえるだろう。	新しい学習指導要領でも「言語活動」の充実が求められており、この学習内容には特に力を入れてきた。今回のテストでは「聞くこと」のみの出題だったが、本校では「話すこと」に特に力を入れている。理由は、いろいろな場面で、積極的な発言ができないと感じたからである。そこで、授業の様々な場面で話し合わせ、発言の場を与えてきた。左記の結果からもこの取り組みを継続していきたい。
漢字	この内容では、読みで宇都宮市を+0、8%、書きで+5、6%上まわっており、あわせると+3、2%上まわっている。昨年は、あわせて+2%であり、また、上記の内容とは逆に昨年の市の平均正答率が70、4%と今年より低いことから、昨年より更に力が向上したと見るべきであろう。	漢字の読みや書き取りについては、新出漢字のプリントを作り、定期テストの範囲として設定し、取り組ませて来たが、今後もその方法を継続させていきたい。
文法・語句に関する知識	昨年は、この内容に古典の内容も含まれていたため、正確な比較は出来ないが、昨年+5、6%、今年+6、5%と市の平均正答率を大きく上まわっている。特に熟語の構成については、市を+16、1%も上まわっており、全体の正答率も86、8%であるので、「文法・語句に関する知識」は十分な達成状況といえるだろう。	文法や語句などの言語事項については、資料集やオリジナルのプリントを作って学習し、ワークなどの問題演習で確認するといった方法で行っている。プリントやワークでは、特になるべく分かりやすいものだけを選んで、身につくよう指導している。今後も継続していきたい。
説明文の内容の読み取り	昨年は、+1%だったが、今年は、+5、8%と宇都宮市の平均正答率を上まわっている。宇都宮市の平均正答率が昨年も今年も同じくらいなので、昨年より力が向上しているといえるだろう。正答率が80%を超えたことも評価できる。	授業では、文章の構成や展開を考え、書き手のもの見方や考えを捉えるだけでなく、書き手の見方や考え方に対する自分の考えを持つよう指導してきた。その中には、当然昨年からの取り組んでいる批評することを意識させている。これは、論理的思考力を育てたいと考えているからである。今回の結果から今後もこのような考えで指導を継続させていきたい。
文学作品の内容の読み取り	宇都宮市の平均正答率を+5、6%上まわっている。昨年は、+2%なので、市との対比では昨年より上がっているが、正答率が67、2%と内容項目の中で一番低い。(市は61、6%)問題を見てみると、やや難しめではあるが、よく読めば出来る問題ばかりである。人物の心情を問う問題を中心に強化を図る必要がある。	文学的な文章の読解では昨年からの、リーディングストラテジーの手法を取り入れた授業を実践している。「場面の展開に即して人物の心情をとらえる」問題の正答率が低いので、特にこの内容を重点的に手法の中に盛り込んで今後指導していきたい。
古典の内容の読み取り	宇都宮市の平均正答率を+6、4%上まわっている。昨年の調査ではこの内容項目はなかったため比較はできないが、すべての問題で平均を上まわっており、十分な達成状況といえるだろう。	古典では、折りにふれ、現代との違いや共通点を比較させることを中心に取り組んできた。また、「万葉・古今・新古今」では、それぞれの歌を鑑賞するだけでなく、三つの歌集の違いについて考えさせた。生徒は興味を持って取り組めたと思う。今後も興味・関心を引き出す指導を心がけていきたい。
作文	宇都宮市の平均正答率を唯一下まわっている。この内容については、昨年も下まわっていた。ちなみに、昨年は-2、7%で、今年は-2、5%である。ただ、昨年も今年も問題が非常にやさしく、市の平均正答率が昨年88、6%、今年87、7%と高いだけで、本校の85、2%が悪いわけではないと思われる。しかし、下回っていることは事実である。	文章の目的に応じて、その都度、型を教えたり、表現の仕方に注意させたりして書かせてきた。授業では、それなりの成果が見られたが、左記のようにやや不満が残る結果となった。今回のテストをみると、グラフからの読み取った事をもとに自分の考えを決められた字数内で、三段落で書くという問題であった。もう一度、字数と段落の意識を徹底させたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の様々な地域	53.8	52.1
	近現代の日本と世界	73.3	67.8
	現代の民主政治とこれからの社会	65.4	65.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.6	54.3
	資料活用の技能	55.1	52.1
	社会的事象についての知識・理解	66.7	65.2



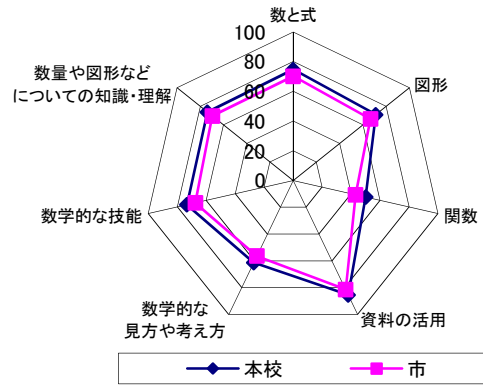
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の様々な地域	宇都宮市に比較して+1.7%となっているが、問題内容の難易度や設問ごとの誤答割合から判断すると、地図の読み方・データの見方など、地理的事象を読みとる基本的な訓練が不足しているのが原因と考えられる。とくにグラフの読み取りと、読み取った結果をきちんと表現することができないため、全体の正答率が低くなっている。	地図や地図帳を使った学習を意識的に進める必要がある。また、グラフ・図表を使った問題解決型の学習を1年次から効果的に取り入れ、資料から読み取った内容を的確に文章表現につなげる訓練の内容をもった指導を心掛けていきたい。また、地理的分野に関する視聴覚(DVDなど)資料が不足しており、効果的な学習が図れるような教科経営を行っていきたい。
歴史	近現代の日本と世界	宇都宮市に比較して、+5.5%で、設問内容が短答式・選択式の回答要求のものについては70~90%の高い正答率を上げているが、資料の読み取りの問題は、市正答率を上回っているものの、地理的分野同様に、読み取った内容を正確に表現できない面、読み取るための基本的知識・理解の不足などが散見される。	歴史的分野は、内容が多岐にわたり、覚える面が多いにもかかわらず、生徒の興味・関心が高く、比較的良好な正答率である。こういった側面を生かし、通史学習をもとにした発展的内容の充実を心掛けたい。具体的には、歴史事象の「いつ・どこで・だれが・なにをして→どうなった」という基本的知識・理解を中学生なりの歴史認識に高める指導を行って行きたい。
公民	現代の民主政治とこれからの社会	宇都宮市に比較して+0.2%で、ほぼ同じとあってよいが、基本的人権・選挙のしくみ・国会を中心とする政治のしくみなど、公民的分野に対する基本的知識・理解に不十分な面が目立つ。新聞を読んだり、テレビニュースを見たりという習慣がない生徒が多いことも影響して、十分な達成状況とはいえない。	本校3学年生徒に、公民的分野に関するアンケートを実施したところ、新聞やテレビでその日のニュースを確認する・・・と答えた者は123名中11名(8.94%)であった。このような現状を打開するため、新聞の切り抜きや、インターネットから得た情報の切り抜きなどを地道に行い、生徒の学習意欲を喚起していく必要がある。こういったことを土台に自分が所属している日本あるいは、国際社会に目を向けさせ、そのうえで学力向上を図りたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	74.6	70.1
	図形	71.1	66.4
	関数	50.1	43.0
	資料の活用	85.4	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	61.3	56.4
	数学的な技能	73.4	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	73.8	69.6



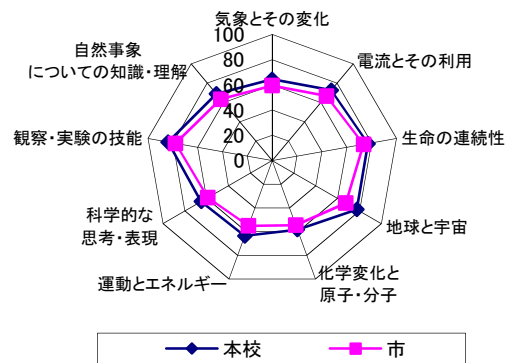
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	宇都宮市と比べると+4.5%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率であり、ある程度定着されていると考えられる。平方根を求める問題で大きく宇都宮市の平均を下回っている。	基本的な計算練習は従来通りしっかりと行う必要がある。が、機械的に問題を解くだけでなく、しっかりとその意味を理解させ、高校数学へとつなげていきたい。
図形	宇都宮市と比べると+4.7%である。設問ごとに見ても、おおむね高い正答率である。三角形の合同の証明については、宇都宮市の平均と比べて+1.5%ではあるが、全体的には55.9%と若干正答率が低い。無回答が14.3%と非常に高い。	角の大きさを求める問題に関しては、意欲的に取り組む生徒が多く見られるが、証明など論理が連続していくような問題は苦手意識が強い。昨年度に引き続きじっくり考えることの大切さ、楽しさを、グループ学習等で感じさせていきたい。
関数	宇都宮市と比べると+7.1%であるが、学校全体の正答率は50.1%とあまりよくない結果であった。特にXの2乗に比例する関数の発展問題は正答率が約3割であり、無回答も約15%と非常に多かった。	関数への苦手意識は根強いが、高校数学でさらに多様で深化する関数分野に対応できるよう、2次関数だけでなく、比例・反比例・1次関数の復習にも力をいれたい。
資料の活用	宇都宮市と比べると+4.0%である。今回の資料の活用は「確率」であり、非常に正答率が高く、おおむね8割を超えていた。	今後も興味・関心を高く持てるような課題を設定し、意欲的な取り組みができるよう指導していきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	64.4	59.4
	電流とその利用	72.8	66.9
	生命の連続性	77.2	73.6
	地球と宇宙	77.6	67.4
	化学変化と原子・分子	58.4	54.6
	運動とエネルギー	63.6	55.1
観点別	科学的な思考・表現	65.0	58.9
	観察・実験の技能	83.9	77.9
	自然事象についての知識・理解	69.0	63.5



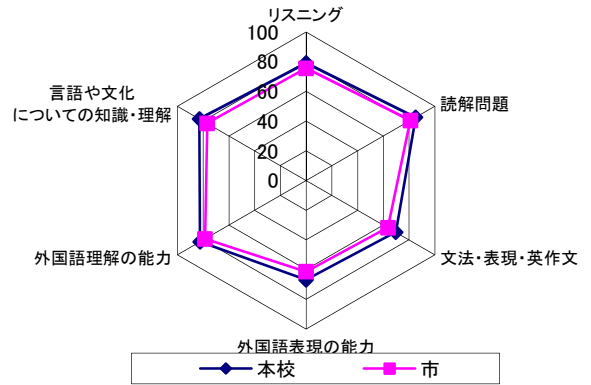
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	宇都宮市と比べると+5.0%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率であり、ある程度定着されていると考えられる。天気情報から寒冷前線が通過した時刻を読みとる問題では、+8.0%になっていた。十分な達成状況といえる。	飽和水蒸気量の問題で、表からの読みとる問題の定着度が市の正答率と変わらなかったため、同様の問題を繰り返しとくことで理解度を上げていきたい。
電流とその利用	宇都宮市と比べると+5.9%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率であり、ある程度定着されていると考えられる。静電気と電流については、市の平均よりわずかに上回っている程度だが、電流と磁界では、7%程度上回り、十分な達成状況といえる。	導線に電流を通したとき、導線の周りにできる磁界について、理解度が低かった。学習から時間がたっており、忘れてしまっている生徒も多いと考えられる。時間がとれる限り、何度も復習する機会を持ちたい。
生命の連続性	宇都宮市と比べると+3.6%である。設問ごとに見ていくと、若干低い正答率もある。遺伝子の組み合わせとその数を指摘する問題では、5%程度下回っている。逆に、遺伝子の本体がDNAであることを指摘する問題では、10%以上上回っているなど、定着度に差が大きいといえる。	遺伝子の組み合わせで、孫の代で現れる形質についての正答率が低かった。繰り返し学習するとともに、科学的思考力を高めるような問題を解く時間を作っていく。
地球と宇宙	宇都宮市と比べると+10.2%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率である。太陽の軌跡から透明半球上の方位については、15%上回っているなど、定着されていると考えられる。	学習して時間がたっていないため、おおむねできていたが、発展的な内容にも取り組み、科学的思考力を高めていきたい。
化学変化と原子・分子	宇都宮市と比べると+3.8%である。設問ごとに見ていくと、化学変化と電池の内容が市の平均とほぼ同じ程度であった。酸・アルカリとイオンでは、5%程度上回っていたが、十分な定着がはかかれていなかったと考えられる。	イオンの記号とイオン式で書くことや電池についての理解度が低かった。もう一度、復習する時間を取り、着実に問題がとれるように時間を取っていききたい。また、内容的に高校にもつながるので、イオン記号などを着実にできるようにしていきたい。
運動とエネルギー	宇都宮市と比べると+8.5%である。設問ごとに見ていくと、おおむね高い正答率であり、ある程度定着されていると考えられる。特に、エネルギーと仕事の問題では、すべての問題で約10%ほど上回っていた。十分な達成状況といえる。	慣性によって、等速直線運動が起こることを予測する問題では、慣性についての理解が低かったため、正答率が低かった。実験などを通してもう一度、理解をはかっていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	79.1	75.5
	読解問題	85.0	80.9
	文法・表現・英作文	69.6	63.5
観点別	外国語表現の能力	66.9	61.4
	外国語理解の能力	82.5	78.7
	言語や文化についての知識・理解	82.9	76.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	宇都宮市の正答率を3.6%上回っている。通常授業ではClassroom Englishの使用や、単元ごとのListening Testを行っている。ALTとのTeam Teachingでは主としてインタビュー活動等を行っている。	全ての設問で市の平均を上回っている。依頼に対する応答を選んだり、曜日を聞き取る設問が市平均との差が少ない。インタビュー活動で場面ごとの応答のパターンを確認したり。月、曜日、数字等を復習したい。
読解問題	宇都宮市の正答率を4.1%上回っている。授業では、主として3～4人のグループで辞書とワークシートを使い、相談しながら本文の要点をまとめたり、全文和訳を行ったりしている。	全ての設問で市の平均を上回っている。会話の流れに適する語や文を選択する設問が市平均との差が少ない。対話文に数多く触れさせたり、インタビュー活動を通して自然な流れの対話を意識させ、向上を図りたい。
文法・表現・英作文	宇都宮市の正答率を6.1%上回っている。通常の授業では単語や基本文の小テスト、問題練習、発展的な英作文等を行っている。ALTとのTeam Teachingでは英文のチェックをALTが、ReadindのチェックをJTEが行っている。	自分の経験を3文以上の英文で書く設問では、「内容のつながり」の正答率が市平均を0.2%下回っている。5W1Hを意識した英作文の課題設定を工夫し、向上を図りたい。